

国際排出権取引とロビイングについて

大阪経済法科大学経済学部

前鶴政和

要 旨

近年、地球温暖化問題のような国際気候問題に対する世間の関心が高まっている。このような国際気候問題に対して、環境ロビー団体のロビー活動が、環境政策を決定する政府の政策の選択に強い影響を及ぼすようになってきている。また、環境政策の手段として、排出税や排出量規制といった政策に加えて、近年、排出権市場に関する分析が盛んに行われている。

本稿では、以上のような現状を背景として、各国におけるロビー活動が行われる2国が存在する状況において、国際排出権取引に対するロビー活動の影響について分析を行う。

本稿では、以下のような状況を分析する。第1国と第2国の2国が存在するものとする。2段階ゲームを想定し、第1段階において、各国の政府が自国企業に初期に配分される排出権（排出許可証）の水準を決定する。この段階において、政府の政策を自らに有利なようにするために環境ロビー団体によるロビー活動が行われる。各国政府は、自国の社会厚生と献金との加重和を最大化するように排出権水準の決定を行う。第2段階で、各国企業が排出削減水準の選択を行う。各国企業は、各国政府が第1段階で決定した排出権を初期配分される。各国企業は、排出権売却による収入から排出削減費用を差し引いた純収入を最大化するように排出削減水準を決定する。

本稿の分析の結果、各国の環境ロビー団体の損失の程度が上昇した場合、均衡における各国の排出権の初期配分水準が下落し、各国の排出削減水準が上昇するということが明らかとなった。また、各国政府が献金に与えるウェイトが変化すると、排出権価格と各国の便益パラメータの平均との大小関係により、均衡における各国の排出権の初期配分水準や各国の排出削減水準に与える影響が異なるということが明らかとなった。